

ヘアカラーとアレルギー

～ヘアカラーを安全にご利用いただくために～



ヘアカラー剤の中で最も多く使用されるのは“酸化染毛剤”（医薬部外品）です。通常は使いやすく安全ですが、ときにアレルギー性のかぶれを起こすことがあります。

*** 使用するカラー剤の種類をチェックしましょう！**

ヘアカラーリング剤の種類

① 染毛剤（医薬部外品）

② 染毛料（化粧品）

① 永久染毛剤

② 脱色・脱染剤

① 半永久染毛剤

② 一時染毛料

① 酸化染毛剤

② 非酸化染毛剤

ヘアダイ
ヘアカラー
白髪染め

オハグロ式毛染め

ヘアブリーチ
ヘアライトナー

酸性カラー
カラートリートメント
ヘアマニキュア

ヘアマスカラ
ヘアカラーズプレー

* 酸化染毛剤と酸性カラーは全く違う種類のカラー剤です。混同しないように注意してください

ヘアカラー Q&A

Q. ジアミン系染料はかぶれやすいって本当？

A. ヘアカラーによるアレルギー性接触皮膚炎の原因物質(アレルゲン)の多くは、酸化染毛剤に含まれる*ジアミン系染料(裏面記載)とよばれる成分です。

Q. かぶれにくいカラー剤があるって本当？

A. カラートリートメント、ヘアマニキュア、ヘナなどはかぶれにくいカラー剤として広く使用されています。ただし、補助的に酸化染料を使用している製品もあるので注意が必要です。

Q. 植物性のものなら安全？

A. 植物由来でもかぶれを起こすものもあります。カラー剤に含まれている成分が、原因物質(アレルゲン)になりにくく、低刺激であるかが重要です。

Q. パッチテストってなあに？

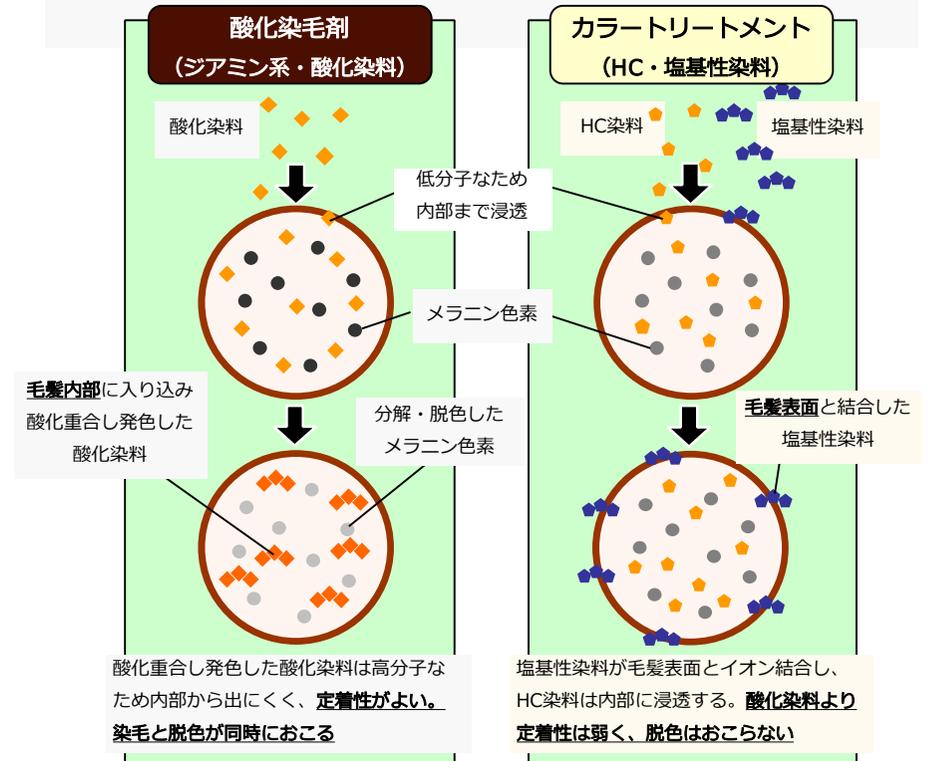
A. アレルギー症状の有無を調べる皮膚テストです。酸化染毛剤について、メーカーは毎回のテストが必要としていますが、ユーザーの*テスト実施率(裏面記載)はとても低いのが現状です。



こんなに違うカラー剤の性格！



下図は、最も多く使用され、発色、色持ちがよい“酸化染毛剤”と、アレルギーを起こしにくく低刺激な“カラートリートメント”の染毛の仕組みの比較です。



ご使用前に！

パッケージ記載の“成分表”を必ずチェックしてください
分からない場合は理美容師または薬剤師にご相談ください

チェック① 医薬部外品の表示があるか

ヘアカラー RP73 1液

成分 バラミノフェノール*、メタミノフェノール*、トルエン-2,5-ジアミン*、レゾルジン*、塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール*、5-アミノトルクレゾール*、水、ラウレス硫酸Na、POEアルキル(12~14)エーテル、MEA、アルキルグリコシド、エタノール、強アンモニア水、塩化ジメチルジアリルアンモニウム・アクリル酸共重合体液、PG、PPG、ヤン油、防腐剤、アシルグルタミン酸Na、塩化アンモニウム、香料、塩化Na、無水亜硫酸Na、アスコルビン酸、トリステアールアルコール、水酸化ナトリウム、酸化ナトリウム

チェック② *酸化染料(ジアミン系染料)があるか *裏面記載

カラー剤の成分に酸化染料(ジアミン系染料)が配合されている場合は裏面記載の注意事項をお読みください

カラーリングはヘアサロンで。

編集：埼玉県理容組合青年部
参考文献：多数の編集者までお問い合わせください



ヘアカラー剤かぶれ なぜ起こる？

【酸化染毛剤（医薬部外品）】の知っておきたい基礎知識

・酸化染毛剤は発色、色持ちがよく、ヘアカラーリング剤の中で最も広く使用されていますが、アレルギー性接触皮膚炎を引き起こしやすい事でも知られています。

酸化染料の役割を果たし、アレルギー性接触皮膚炎を引き起こしやすい代表的な物質（ジアミン系染料ともよばれる）としては、

・**パラフェニレンジアミン** ・**メタアミノフェノール** ・**パラアミノフェノール**・**トルエン-2, 5-ジアミン** 等 があります。

お使いのカラー剤にこれらの物質が配合されているか必ずチェックし、アレルギーがある方は絶対に使用しないでください。

【アレルギー性接触皮膚炎】と、【刺激性接触皮膚炎】の違い

《刺激性接触皮膚炎》

・原因物質自体が持つ刺激や毒性によるかぶれで、**アレルギーに関係なく誰にでも起こりえますが、体調によっては起こったり起こらなかったりします。**酸化染毛剤においては2剤に使われる**過酸化水素水**なども原因となることがあります。

《アレルギー性接触皮膚炎》

・原因物質（アレルゲン物質）に繰り返し触れることで湿疹が現れます。ヘアカラーにおいては特に**ジアミン系の酸化染料**がアレルゲンになることが多く、**施術後24～48時間後**をピークに症状が強く現れます。**一旦症状が治まっても、再度使用すれば発症し、次第に症状が重くなり、全身症状を呈することもあります。**

《アナフィラキシー》

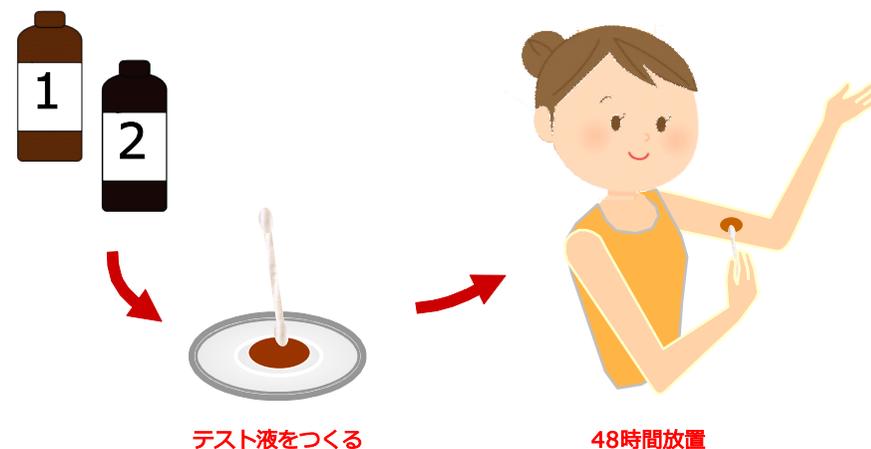
・原因物質（アレルゲン物質）との接触から短時間のうちに、**じんましん、息切れ、動悸、血圧低下、めまい**等の症状が**複数**現れます。**一旦症状が治まっても、再度使用すれば発症し、アナフィラキシーショックを起こすこともあります。**

使用前に必ずカラー剤の種類を確認し、分からない場合は理美容師または薬剤師にご相談ください

お肌の防衛策！“パッチテスト”

【セルフテスト*パッチテスト】の方法

・ヘアカラーリングにおけるお肌の防衛策として**セルフテスト（パッチテスト）**があります。1剤と2剤を指定の割合で作ったテスト液を二の腕の内側に10円硬貨大にうすく塗って自然乾燥させ、**30分後**及び**48時間後**の観察をします。



・**アレルギー性接触皮膚炎は翌日以降**に反応が現れる可能性が高いため、**48時間後の観察も必要です。**陽性の場合、かゆみ、湿疹などが現れます。

・絆創膏等で覆わないでください。

（感作を促したり過度のアレルギー反応を引き起こしたりするおそれがあるため）

*テスト結果が**“陰性”**の場合はなるべくすぐに染毛してください。**“陽性”**の場合はすぐにテストを中止し、カラーリングは絶対に行なわないでください。

*消費者庁の調査では、全てのカラー施術時に毎回テストを行っているヘアサロンは9.1%、一般消費者（自宅でのカラーリング）に至っては2.3%という低いテスト実施率でした。これは、テストに48時間を要することが最大の原因と考えられます。消費者が実施しやすいセルフテストの方法をメーカーに求めていく必要があります。

カラーリングはヘアサロンで。

編集：埼玉県理容組合青年部
参考文献：多数の編集者までお問い合わせください

